

ママ、初めてのスピーチ

長野・八ヶ岳ピースパレード

長野県諏訪地方の30代や40代の若者でつくる八ヶ岳ピースパレード(高橋淳代表)は、「政治をもっと身近にする楽しいイベントに」とお茶飲み会や街頭でのスタンディング、芋饅頭などに取り組んでいます。1月30日には、JR茅野駅前で「民主主義って、どうしていいの?」(Why not?)と題して、政治をもっと身近にする楽しいイベントを開催。スタンディングとママの会の3人が初めてスピーチしました。

「命の危険にさらされは野口朋子さん(35)さん。までもに答弁しない国会審議を見る中、戦争法が「国ってこんなに暴走するんだ」と実感。東京のデモにも何度も行きました。10代や20代が街頭で声を上げる姿を見て、「声を上げない自分が恥ずかしい」と感じました。

平和つないで

「街頭で『戦争反対!』って言わなくちゃいけない日本にした私たちにも責任がある」と話す朋子さん。スタンディングでこう訴えました。「平和は自分たちでつないでいかなければ、すぐにほころびます。だから私たちも声を上げ続けたい」

この日の街頭スピーチ・スタンディングには、お年寄りから子どもまで100人が参加しました。風船やフラカード、温かいスープも準備されました。大型スピーカーから流れる音楽に、男性バンドによる演奏もありました。

野口美和さん(43)さん || 原村も街頭で話したところなどありませんでした。

命の危険ない世の中であり続けるように

た。長女(5)を育てる中で、「この子が戦争に取られるなんてイヤ。どんな理由があっても、戦争はしてはいけない」と思った美和さん。マイクを握って訴えました。「何があっても戦争は永久に放棄すると掲げてきた旗を降ろし、戦後ずっと守ってきたものを手放した。それを認めた世代になります。それは絶対に嫌です!」

高橋晃子さん(37)さん || 富士見町は、何度も涙に声を詰まらせながらスピーチしました。「もしも、女性だけに政治を任せられたならば、戦争は絶対にならない。戦後70年間、戦場に子どもを送り出すことがなかったのは、その気持ちを受け継ぐ人たちの努力だと思ふ。今度は私の番だと思ふ。人前で話すことなど苦手な私が、今こうしてみなさんにお話しさせてもらっています!」

政治を身近に

八ヶ岳ピースパレードママの会をつくると呼びかけたのは藤森真理さん(37)です。「政治はタブーじゃなくて、私たちの暮らしの身近なもの。こういうイベントを何度か開いて、たくさんの人を呼んでいきたい」

八ヶ岳ピースパレードは、2月20日にも同様のスタンディング行動に取り組みます。

(長野県・渡辺雅浩通信員)



スピーチでは初めてのママも自分の思いを訴えました1月30日、茅野市